

朱鷺メッセで開催された「にいがた酒の陣」には2日間8万6000人も入場者があった。良いことだ。米とならんで日本酒は新潟が世界に誇る産物である以上、それを売りにするのは当然である。しかし「もったいない」とも思っ

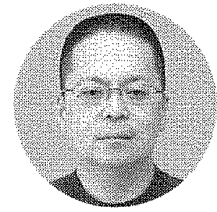
た。なぜこの大量の人々をもっと利用しようと思わないのか。おそらくこのなかには県外客も多かっただろう。言葉は悪いけれど彼らを「酒の陣」以外にも引っぱりだして金を使わせればよいのである。他県の経済人ならこの機会を見逃すはずがない。そのためには県外客を

時々 草々

最低でも1泊させなければならぬ。ところがこれまで2日間有効だった「酒の陣」チケットが今年から1日券になった。諸般の事情もあるだろうが、これでは東京の

温泉街との連携がほとんどない。せめて2次会用に市内の居酒屋くらい紹介すべきだろう。たまた

越智 敏夫 (新潟国際情報大教授)



おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

もったいない酒の陣

温泉街との連携がほとんどない。せめて2次会用に市内の居酒屋くらい紹介すべきだろう。たまた

わらないものだった。こうした県内連携の欠如とも関連するが、この好イベントを他県との連携に使わないのももった

からの復興途上にある地域を応援するくらいの度量はもってほしかった。それだけの質の高さが新潟の酒にはある。

「酒の陣」が直前に起こった震災のために急きよ中止されただけに、他県との連携の動きがないのがいっそう残念である。

以上のように内外ともに連携、協力を嫌がるという構図は日本酒以外にもあてはまる。新潟の問題の一つである。

日本酒ファンに新幹線で日帰りしろと言っているようなものだ。またイベントのチラシを見ても、他の観光地や

ま「酒の陣」初日に卒業生との飲み会があり、新潟市内の繁華街を歩いたのだが、個人的な印象としてはふだんの週末と変

いない。新潟県酒造組合が主催する以上、県内酒の販売促進が目的なのはわかっている。しかしだからこそ、東日本震災

原発事故のために新潟県に避難している福島県民もまだ多い。そういう人たちを元気づけるためにも福島や他の被災地の酒蔵に声をかけることはできなかったのか。

一昨年の「酒